

## 伊方発電所における使用済燃料乾式貯蔵施設の設置等について

### 1. 乾式貯蔵施設の概要

#### (1) 設置目的

伊方発電所で発生した使用済燃料を再処理工場へ搬出するまでの間、一時的に貯蔵する施設として、伊方発電所の敷地内に使用済燃料乾式貯蔵施設を設置いたします。

#### (2) 運用開始時期

2023年度からの運用開始を予定しています。

#### (3) 施設内容

乾式貯蔵施設は、乾式貯蔵建屋と乾式キャスクから構成しており、使用済燃料の冷却に水や電源を使用しない、安全性に優れた貯蔵方式です。

##### ①乾式貯蔵建屋（図-1 参照）

項目	計画
規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1棟（鉄筋コンクリート造り）</li> <li>・ 東西：約40m、南北：約60m、高さ：約20m</li> </ul>
貯蔵容量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 燃料集合体で約1,200体規模（乾式キャスクで45基分）</li> </ul>

##### ②乾式キャスク（図-2 参照）

乾式キャスクは、4つの安全機能（閉じ込め機能、臨界防止機能、遮へい機能、除熱機能）を有し、使用済燃料を輸送容器に詰め替えることなく発電所外へ搬出することができます。（輸送・貯蔵兼用）

項目	計画
寸法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高さ：5.2m、直径：2.6m</li> </ul>
重さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 約120トン（使用済燃料を収納した状態）</li> </ul>
収納体数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用済燃料32体/基（1,2号機燃料）</li> <li>・ 使用済燃料24体/基（3号機燃料）</li> </ul>

### 2. 1号機廃止措置に伴う使用済燃料の3号機への構内輸送

1号機に貯蔵中の使用済燃料237体について、本年6月より3号機への構内輸送を開始いたします。2019年度中にはすべての使用済燃料を3号機へ構内輸送し、廃止措置計画を着実に進めてまいります。

図-1 乾式貯蔵施設のイメージ図

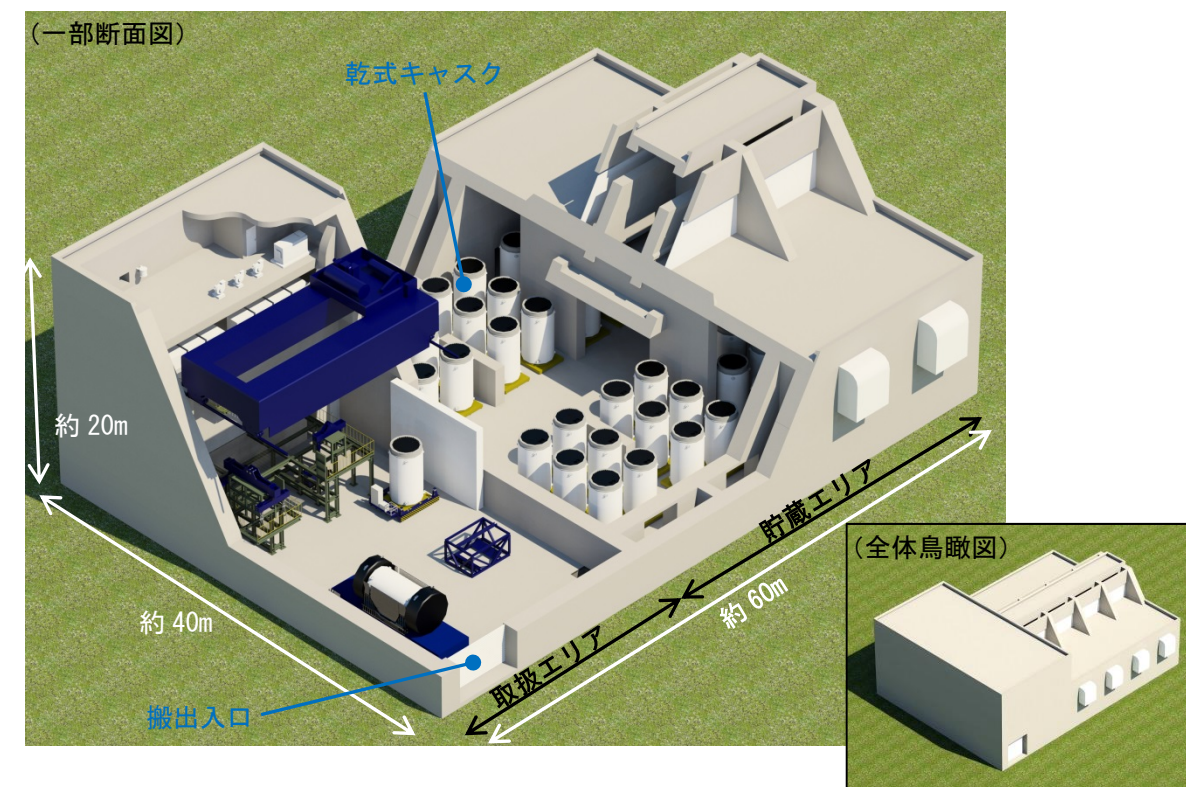


図-2 乾式キャスクの構造

